
誰もが知っている「あさぴー号」を目指して



尾張旭市営バス「あさぴー号」を育てる会（尾張旭市）

はじめに

◆市域面積 21.03km²
 (東西最長5.7km 南北最長5.6km)

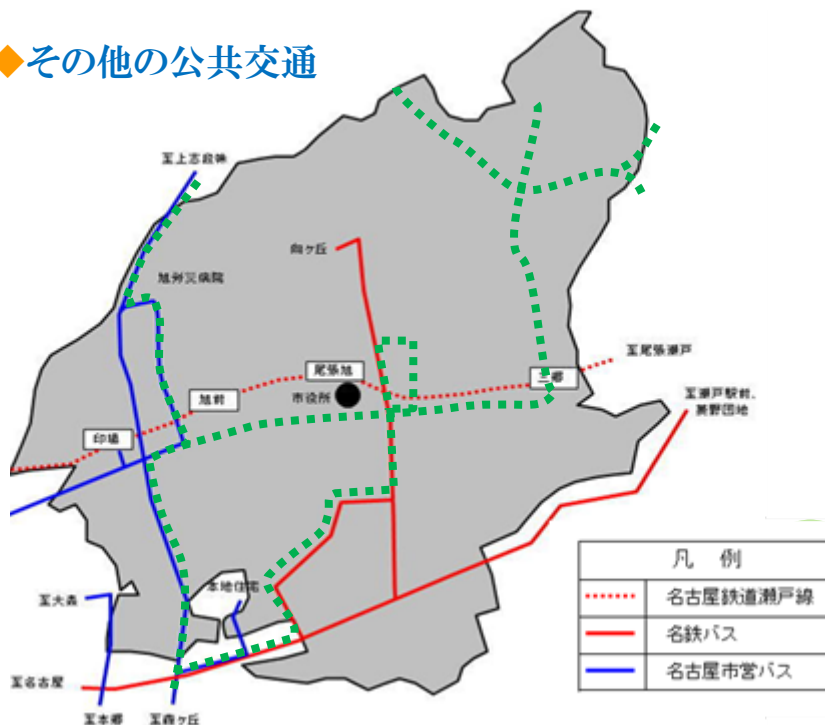
◆人口 81,534人(平成23年1月末現在)

◆イメージキャラクター
 あさびー(市民公募で決定)

◆市営バス あさびー号(市民公募で決定)
 西ルート、東ルートの2ルートの
 右回り、左回りの双方向ループ方式で運行



◆その他の公共交通



尾張旭市営バス「あさび一号」を育てる会の発足までの流れ

■平成15年度

尾張旭市交通問題対策協議会の開催(学識経験者、市民代表、公募委員)



■平成16年度

尾張旭市交通問題懇話会の開催



料金を1回100円として、9人乗りワゴン車3台で、西ルート、東ルート及び南ルートの3ルートの試験運行を開始。



ルートの増強。市外にも停留所を増設。



マイクロバスを導入し、愛称・車両デザインを公募。



本格運行の開始(平成20年4月1日)



■平成19年度

市民団体発足準備(発起人:4名)



■平成21年6月4日

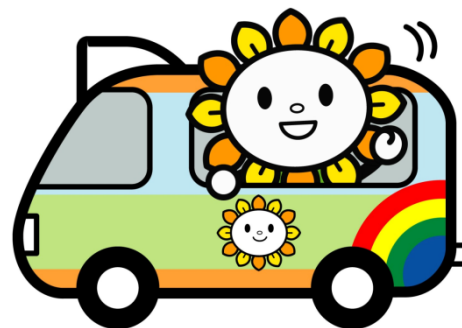
尾張旭市営バス「あさび一号」を育てる会発足

会員数: 30名(平成23年3月1日現在)

目的: 市営バス「あさび一号」の運営に関する取り組みを通じて、その活性化を図るとともに、市民の生活の足として、市営バスを守り、育てていく。

1 事業の背景と目的

- ◆ 昨年度の「モデル事業」の実施効果により、あさび一号の利用者数は増加し、認知度についても一定の効果が得られたが、あさび一号をさらに市民に親しまれ、より良い公共交通機関とするためには引き続き利用者や市民レベルで話し合いを行う必要がある。
- ◆ 昨年度当会が実施したアンケートでは、あさび一号の利用者層は60歳以上の高齢の利用者が8割を占めていた。更なる利用促進のためには、高齢のかたへ継続して利用啓発を行うとともに、幅広い世代に対してもPRする必要がある。
- ◆ あさび一号を守り育てていくためには、幅広い世代の市民からあさび一号を応援してもらうことが欠かせない。そのためには、あさび一号の現状を市民の視点でしっかりと把握し、多くの人へ伝え、知ってもらうことが必要。
- ◆ 単に行政の取組みを応援するだけでなく、市民目線での要望や提言を随時行い、あさび一号が市民に親しまれ、より良いものとなるよう努める。



2 事業の概要と結果

市開催イベントに参加（利用啓発活動の実施）



あさび一号の車両展示



あさび一号運転手体験



あさび一号ぬりえの実施



あさび一号ぬりえの車両展示(イベント開催後)

会報「あさぴー号だより」を発行



会員による会報印刷作業

利用者ニーズを把握するため、あさぴー号に1日乗車してアンケート調査を実施



あさび一号クイズラリーを実施



バス停に掲示したクイズの「ヒント」



商業施設内に設置した応募用紙



あさび一号ストラップの作成

あさび一号市民講座～公共交通とまちづくり～の開催



会場風景



名古屋産業大学 伊豆原教授による講演

公共交通に関する教材(下敷き)の作成



あさび一号下敷き(表面)



あさび一号下敷き(裏面)

児童向けの公共交通に関する勉強会の開催



あさび一号クイズの実施



あさび一号すごろくの実施



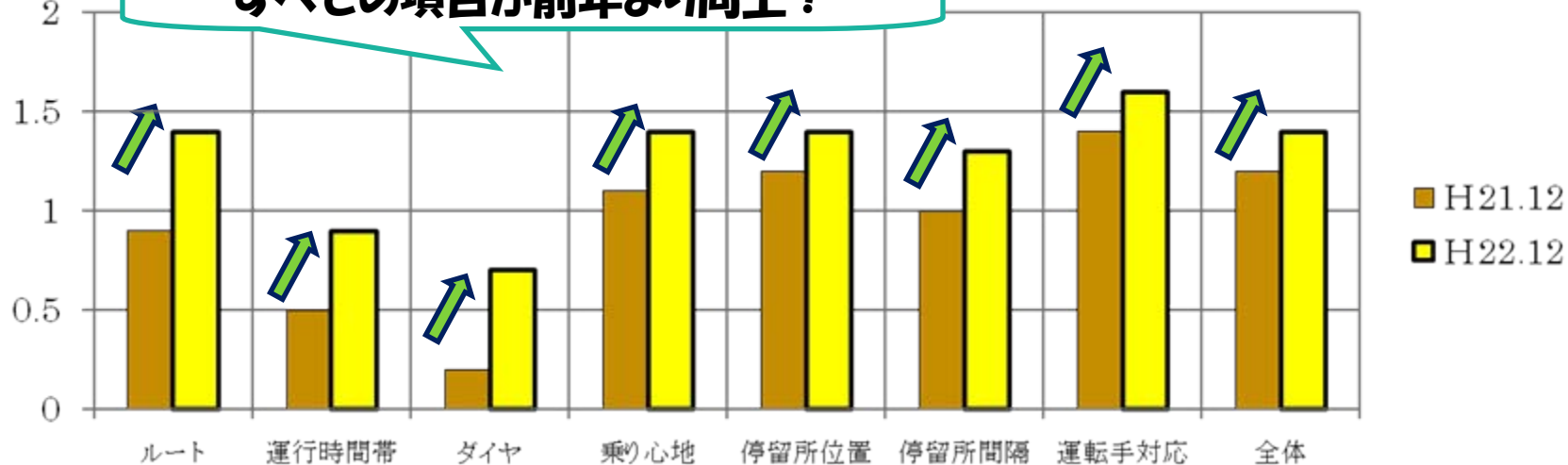
あさび一号ストラップの配布

3 事業の効果

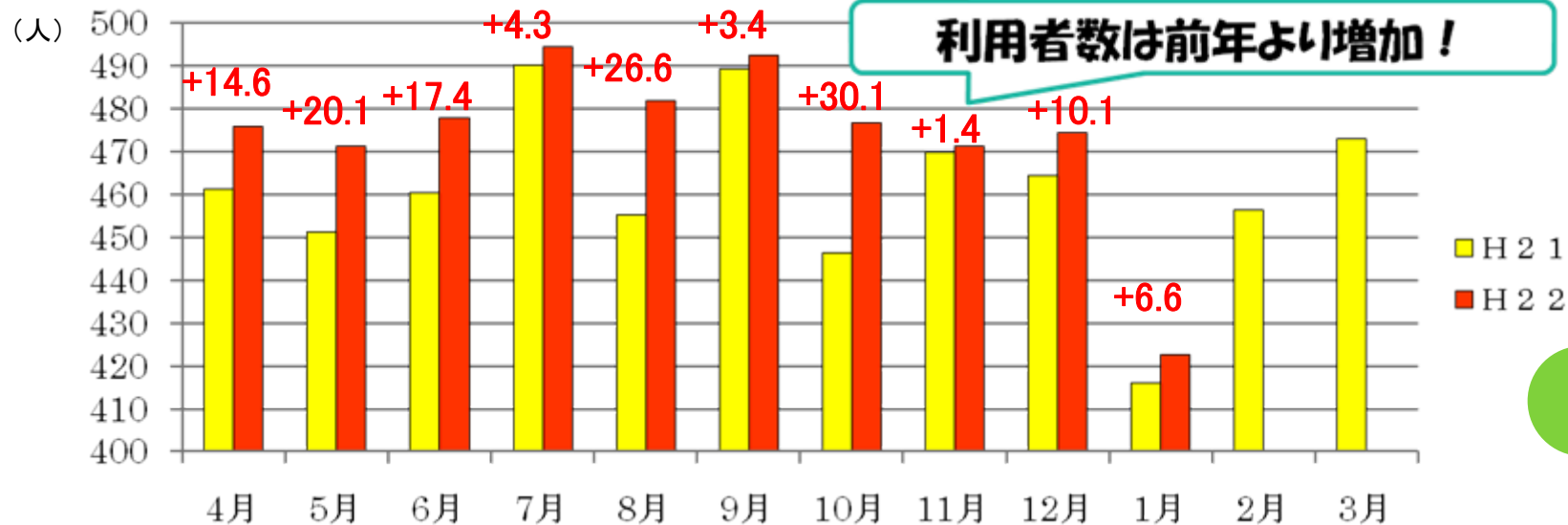
利用者の満足度の向上

(ポイント)

すべての項目が前年より向上!



日当たり利用者数の増加



4 今後の課題及び展開

- ▼ 決して無理せず、また堅苦しくなく、参加者が楽しみながら活動することで、おのずと活動の輪は広がっていく。そうすれば、利用者も増加し、ひいては市営バスを守り、育てていくことにつながっていく…
- ▼ 今年度の実績に基づき、さらに「あさび一号」の利用を促進。
利用状況の調査を継続的に行い、行政とは違った視点で事業評価。
- ▼ 「あさび一号クイズラリー」の経験に基づき、商業施設や商工会等との連携も研究。
「あさび一号下敷き」の作成や「公共交通に関する勉強会」の開催経験に基づき、児童など幅広い世代に対しても「あさび一号」に親しんでもらうとともに、「公共交通に関する教育」についても研究。
- ▼ 私たちの活動によって、「寝たきりにさせないまち」、「外に出かけたくなるまち」の実現につなげ、これによって「人と人が触れ合う機会」が増え、コミュニティの活性化にもつながっていくことを願います。

ご清聴ありがとうございました。